

令和 3 年 5 月 21 日現在

機関番号：34603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K01075

研究課題名(和文)古墳時代における装飾付大刀の生産と流通に関する研究

研究課題名(英文)Production and distribution of decorated swords in Kofun period

研究代表者

豊島 直博 (Toyosima, Naohiro)

奈良大学・文学部・教授

研究者番号：90304287

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、古墳時代の装飾付大刀を広く観察し、生産と流通の実態を解明することである。具体的には、頭椎大刀と圭頭大刀を中心に実測図の作成と写真撮影を行い、新たな分類と編年を提示した。また、時期別分布図を作成することによって装飾付大刀の流通経路を解明し、出土文字資料を参考に生産主体を考察した。その結果、装飾付大刀の生産と流通には畿内の有力豪族が深く関与し、その消滅は7世紀中頃の大化の改新に要因があると結論づけた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、各地の博物館や教育委員会が所蔵する装飾付大刀の新たな図面と写真を学術論文において公開した。それらにはこれまで未公表であった資料が多く含まれ、考古資料の公開と活用に大きく貢献した。装飾付大刀の研究では製作技法や分類、編年など、考古学的な研究成果がこれまでに多く蓄積されている。本研究では出土文字資料や地名を参考に装飾付大刀の生産主体を推定した。考古学と、文献史料による古代史研究を結びつける研究として、大きな学術的意義と発展性を有する。

研究成果の概要(英文)：In this study, I researched many decorated sword in kofun period. I constructed new typology and chronology of sword with a bulbous pommel and sword with a pommel having a bulge on the hilt end. Making a new maps of them, I can discovered a routes of distribution. I guess subjects of productions from excavated text materials. In conclusion, I think that powerful clans in Kinki area product and distribute decorated swords and that the reason of disappearance of them is ruin of the clans in mid-7th century.

研究分野：考古学

キーワード：古墳時代 装飾付大刀 頭椎大刀 圭頭大刀 氏族

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本の後期古墳からは、金や銀で表面を飾る装飾付大刀がしばしば出土する。それらは把頭の形によって単龍環頭大刀、双龍環頭大刀、獅噛環頭大刀、頭椎大刀、圭頭大刀、円頭大刀などに大別され、器種ごとに分類と編年が行われてきた。多様な装飾付大刀が併存する理由として、畿内の有力豪族が個別に生産と流通に関与したという説がある。例えば、双龍環頭大刀は蘇我氏、頭椎大刀は物部氏と関係が深いという見解がある。また、装飾付大刀は7世紀初頭に一斉に消滅し、方頭大刀に統一される。その背景には、推古朝に官位制が導入され、大刀による身分表示が廃止されたという意見がある。このように、装飾付大刀は日本の古代国家形成を解明するうえで重要な遺物である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、装飾付大刀の生産と流通の実態を解明し、日本の古代国家形成論を発展させることである。古墳時代を初期国家段階とみる「前方後円墳体制論」は、国家の必要条件として軍事組織の発達や、鉄をはじめとする必需物資流通の掌握を挙げている（都出比呂志 2005『前方後円墳と社会』塙書房）。本研究で扱う装飾付大刀は軍事に関わる武器であると同時に、必需物資である鉄と貴金属の産物である。ゆえに、その生産と流通の実態を解明すれば、前方後円墳体制論の妥当性を検証できる。

3. 研究の方法

本研究の最終的な到達目標は、装飾付大刀の分類と編年を確立して生産と流通の様相を解明し、装飾付大刀が国家形成に果たした役割を考察することである。具体的には 観察に基づく圭頭大刀、円頭大刀、獅噛環頭大刀の分類と編年の確立、 地域を選択した装飾付大刀の分布と古墳の構成要素、氏族分布の比較、 装飾付大刀の生産・流通から見た国家形成の考察、以上の3点が作業上の目標である。本研究では、研究の立ち遅れている圭頭大刀、円頭大刀、獅噛環頭大刀に研究対象を絞る。まず、先行研究や発掘調査報告書をもとに資料を集成する。つぎに、未発表資料や遺存状態が良好な資料を選び、収蔵機関に赴いて実測と写真撮影を行う。これらの基礎作業を通じ、大刀の新たな分類と編年を構築する。

4. 研究成果

(1) 頭椎大刀の生産と流通

本研究では古墳時代の頭椎大刀を広く観察し、製作技法に基づく分類を提示した。頭椎大刀は鳩目金具の長さ、把頭の畦目の数によって8型式に分類できる。また、双龍環頭大刀と比較して各型式の年代を推定し、頭椎大刀を5期に編年した。頭椎大刀は木製品が6世紀前半に出現し、6世紀第 四半期に金銅製品が加わり、7世紀第 四半期まで生産されると推定した。筆者の編年に基づいて頭椎大刀の分布を検討すると、一貫して東日本、とくに群馬県に濃密に分布する。群馬県では出土文字資料から、在地の有力者として物部氏の存在が指摘できる。また、大和における物部氏の本拠地である奈良県布留遺跡、近在のハミ塚古墳で頭椎大刀の一部が出土しており、生産に物部氏に関わるとい説を追認した。7世紀第 四半期には、頭椎大刀と双龍環頭大刀の製作技法、流通経路の交流が進む。背景として、587年に物部守屋が蘇我馬子に滅ぼされ、頭椎大刀の生産工房が蘇我氏に接收されたと推定した。頭椎大刀と双龍環頭大刀は7世紀中頃に消滅する。それは蘇我本宗家の滅亡と関連し、武器生産が豪族主導から天皇家主導に転換する国家形成の画期であると結論づけた。

(2) 岡山県北部における古墳時代から古代への転換

本研究では、古墳時代から古代への転換を探る事例研究として岡山県北部を取り上げた。兵庫県西部から岡山県北部では、古代の美作道に沿って双龍環頭大刀や頭椎大刀が分布し、古墳時代後期における交通路のあり方を示している。岡山県北部から先は、谷田峠を越えて伯耆国に至る経路が主要な交通路であったと考えられる。いっぽう、白鳳期の瓦に注目すると、川原寺系の軒丸瓦である珠文帯複弁六葉蓮華文軒丸瓦が播磨から美作にかけて、美作七複弁軒丸瓦が美作を中心に分布している。装飾付大刀の分布の集中地域であった北房地域には美作七複弁軒丸瓦が分布せず、備中式軒丸瓦が出土している。以上から、古代における主要な交通路は備中北部を経由せず、志戸坂峠を通る因幡道に切り替わると推定した。西播磨を中心に分布する蓮華文帯鴟尾が因幡道沿いの大海廃寺で出土していることも、それを裏付ける。

(3) 日本における鉄製武器の生産・流通と国家権力の形成

現時点における考察として、弥生～飛鳥時代における鉄製武器の生産と流通を検討し、古墳時代前期(3世紀後半)と飛鳥時代後半(7世紀後半)に画期を見いだした。第1の画期は、器種構成や装具に地域性が見られる段階から、刀剣類が画一化し、畿内に分布の中心が生まれる段階である。背景として、倭国大乱による鉄器流通の混乱が収束し、大和政権が刀剣類を威信財とし

て各地に配布したと考えた。また、墳丘をもたない墓に武器が副葬される事例や、畿内豪族の本拠地における武器生産に注目し、古墳時代中期（5世紀）には豪族が個別に軍隊を組織する状況を復元した。さらに、古墳時代後期（6世紀）には装飾付大刀の生産が始まる。蘇我氏は双龍環頭大刀、物部氏は頭椎大刀を生産し、各地に配布することにより、地域支配を進めた。

こうした状況は大化の改新まで続くが、蘇我氏の滅亡を経て、大王家は武器の生産体制を強化した。第2の画期は7世紀第 四半期で、国営の武器生産工房と管理体制が成立し、国家の完成に至る。その背景は、百濟救援戦争で唐と新羅に敗れ、軍事体制の転換を迫られたことにあると考えた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 豊島直博	4. 巻 102-1
2. 論文標題 頭椎大刀の生産と流通	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 考古学雑誌	6. 最初と最後の頁 77-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 豊島直博	4. 巻 65 - 2
2. 論文標題 日本における鉄製武器の生産・流通と国家権力の形成	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 考古学研究	6. 最初と最後の頁 54 - 69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 豊島直博
2. 発表標題 日本における鉄製武器の生産・流通と国家権力の形成
3. 学会等名 考古学研究会第64回総会研究集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 豊島直博	4. 発行年 2020年
2. 出版社 奈良大学文学部	5. 総ページ数 90
3. 書名 装飾付大刀の生産と流通に関する研究（ ）	

1. 著者名 豊島直博	4. 発行年 2021年
2. 出版社 奈良大学文学部	5. 総ページ数 87
3. 書名 装飾付大刀の生産と流通に関する研究()	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------